

道徳教育

(1) 全体構想

(生徒の実態)

- ・明るく素直で、学習、生徒会活動、部活動で温かい雰囲気活動している。
- ・生徒会活動等で、自分の役割を真面目にきちんとこなす生徒が多い。
- ・概ね授業規律は定着しているが、高め合う場面において、自分の考えを積極的に発言したり、自他の考えを関わらせながら話し合ったりすることがうまくできない。
- ・諸活動において、仲間と関わり合いながらよりよい学校生活を送ろうとする生徒が多い一方、周りの状況を見て進んで呼びかけることができる生徒が少ない。

(家庭・地域の願い)

- ・何事も積極的に取り組み、社会の秩序と規律を高める生徒
- ・自己理解を図り、思いやりのある生徒
- ・生きる喜びをもち、地域社会の発展に尽くす生徒
- ・目標をもち、その達成のために努力を続ける生徒

学校教育目標

心豊かで、創造力と実践力のある自立した人間の育成

【友愛】 品位があり、友愛の精神に満ちた生徒
【創造】 自ら学び、創造的な知性を身に付けた生徒
【剛健】 希望をもち、剛健な心身で生きる生徒

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
児童憲章
世界人権宣言

道徳教育の重点目標

集団や社会との関わりの中で人間としての生き方を見つめ、共に豊かな心を育み、よりよく生きようとする生徒を育てる。

A 自主的に考え行動する態度を養い、自律性を育成する。
 B 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場を尊重し、助け合う心を育成する。
 C 社会生活を送るうえで人間としてもつべき規範意識を育成する。
 D 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育成する。

《道徳教育の目標》
人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

各学年の指導の重点

視点	第1学年	第2学年	第3学年
A	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。
B	思いやりの心をもって人と接するとともに、周りの人の支えに感謝し、それに応えようとする。	互いに励まし合い、高め合うとともに、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。	それぞれの個性や立場を尊重するとともに、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。
C	集団の一員としての役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める。	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。	協力し合ってよりよい校風をつくとともに、自分の役割と責任を果たして集団生活の充実に努める。
D	生命の尊さについて、その連続性や有限性を理解し、かけがえのない生命を尊重する。	ありのままの人間がもつ心の弱さを克服し、自分に恥じない生き方を目指すとする。	自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで、誇りある生き方に近づこうとする。

家庭・地域との連携

◎相互理解と信頼を基に協力し、連携して生徒の道徳性の育成を図る。

- ・各種たより（学校、学年、保健等）、授業参観、保護者会、ホームページ等を通して、家庭・地域との連携を図り、基本的な生活習慣や生命の尊重について、足並みを揃えて指導する。
- ・地域行事への積極的な関わり、『社会に学ぶ「14歳の挑戦」』、地域での奉仕活動等において、家庭や地域と連携して道徳性を高める指導に努める。

生徒指導の方針

◎教師と生徒、生徒相互の心の交流に努め、特に、教師と生徒の間の受容と共感による信頼関係の醸成に努める。また、生徒相互の人間関係の基礎となる、認め合い学び合う関係を築く機会と場を、積極的に設ける。

○生徒理解のために生徒の声を「聴く」機会の設定に努め、学習時はもちろん、学級活動時においても内面理解を深める工夫をする。

○基本的な生活習慣の形成と規範意識の育成のため、生徒の創意を生かした活動場を設定し、細かな指導を行う。

○問題に直面した生徒の指導には、学校全体の支援体制をつくり、あわせて家庭・地域・関係機関とのネットワークの強化に努める。

各種教育活動・情報モラル教育等における道徳教育の指導の方針

◎自己理解を深め、自己実現を図るための能力・態度を高める指導の手立てを工夫する。

○差別や偏見のない人権尊重の精神の育成に努める。

○マナーやルールを意識しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

**特別の教科 道徳（道徳科）
道徳科の時間**

《道徳科の目標》
道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

◎道徳教育の要として、全教育活動における道徳教育と密接な関連を図る。計画的、発展的な指導によって、これを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。

- ・一人一人の道徳的な感じ方や考え方を生かし道徳的価値の内面的な自覚を促し、深めるよう指導の工夫に努める。
- ・指導内容の重点化と年間指導計画の改善を図る。
- ・少人数の特性や生徒の実態を生かした指導過程及び指導方法を工夫する。
- ・道徳的価値の内面的な自覚を深める指導を工夫する。
(資料選定と提示の工夫)
(発問の工夫)
(多様な価値観を引き出し、内面的な自覚を深める工夫)
(対話や話し合い、役割演技等の授業展開の工夫)
- ・他の教育活動で行う体験活動と密接に関連させたり、振り返らせたりするなど指導法を工夫する。
- ・郷土資料の開発、活用及び生徒の実態に基づく資料の教材化を図る。
- ・担任外教員、保護者や地域の人々の協力体制を構築する。

各教科における道徳教育の指導の方針

◎道徳教育に関わる側面を明確に捉えて指導し、道徳教育の一層の効果向上を図る。

○体験的・問題解決的な学びを重視し、課題を自己の生き方との関わりの中で考えようとする学習態度を育てる。

○自己内省を促進するために、ワークシートやポートフォリオ等を活用し、評価の工夫に努める。

特別活動における道徳教育の指導の方針

◎特別活動における「体験的な活動」を道徳科の時間の指導に密接に関連させ、双方の特質を生かしながら、好ましい人間関係や規範意識を育てる。

学級活動

- ・学級集団の一員としての自覚をもち望ましい集団生活や人間関係を築く。
- ・自主的・体験的活動を通して、個人及び社会の一員としての在り方、将来の生き方等を考えるようにする。

生徒会活動

- ・自治的活動を通して集団の一員として集団生活を向上させようとする態度を育てる。

学校行事

- ・集団生活の規律、協力、責任等を体得し、望ましい校風を育て、豊かで充実した学校生活を送るために進んで責任を果たそうとする態度を育てる。

**「総合的な学習の時間」
における道徳教育の指導の方針**

◎自ら課題を見付け主体的に判断し、よりよく解決していく力を育てる。

○問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組み、積極的に自己の生き方を考える態度を育てる。

<日常的な道徳実践の場> 基本的生活習慣の形成と望ましい人間関係の形成

- ・登下校 生徒会を中心とした挨拶運動
- ・休み時間 友達との友好関係の構築、時間を意識した行動
- ・清掃活動 勤労奉仕と師弟同行
- ・給食 望ましい食習慣、好ましい人間関係や感謝の気持ち
- ・部活動 一人一人の能力の伸長と自己実現への支援、目標に向かって努力すること

◎家庭・地域・学校の一体化
◎小学校との連携

◎温かい人間関係
◎温かい学級・つながり
◎生徒と教職員の信頼関係

◎全教職員の共通理解による協力体制